

## カワリサンコウチョウの繁殖習性

趙正階<sup>1</sup>・郭万福<sup>2</sup>・孫宝権<sup>3</sup>

1 長白山自然保護区

2 双遼県一馬樹林場

3 懷徳県二十家子林場

訳 福井和二

カワリサンコウチョウ (*Terpsiphone paradise*) は美しい夏鳥で、毎年5月中旬に渡来し、5月末から6月の初めに繁殖を始め、8月末頃南へ渡ってゆく。吉林省では主に東南部の低山丘陵地帯の広葉樹林に生息し、灌木あるいは低高木の枝の叉の部分に営巣する。我々が見つけた4巢のうち3巢が小高木の枝叉の部分に営巣し、他の1巢が柳の枝に営巣していた。巣は精巧にできており、上部が円形で低部は尖っており、円錐を逆さにした形である。外壁は植物の花序、苔、羽毛、綿花、クモの巣などが使用され、内壁は細い草本の根、茎、草の葉、樹皮の繊維、苔類で造られている。4巢の計測によると、外径70~90、内径60~68、深さ33~35、高さ60~83mmであり、地上から1~1.61mの位置にあった。一巢の卵数は差があり、一般的には2~4卵とされ、卵サイズも15×21mm、卵重2~2.5gとされるが、我々の観察では、1巢1卵、サイズ19×25mm、3.8gと通常のものより大きい卵であった。なお他に観察した巣では1巢4卵、サイズ15×21mmが2卵、19×26、21×20mmで、重量は前の2卵が2g、後者がそれぞれ5gと6gと、あまりにも差が大きく、我々は他の鳥の托卵ではないかと疑った。しかし卵色は非常に似ており、均一なベージュ色のうえに栗色の斑点がある。カワリサンコウチョウの卵は決して一様ではなく、あるものは黄白色、あるいは灰黄白色に赤褐色の斑点がある。卵の形状は楕円形である。

カワリサンコウチョウは6月中旬に産卵する、繁殖期は常に雌雄共に林間で行動し、希には地上へ下りることもある。時々“ツィツィ会会”と鳴き、殊に夜明け頃によく鳴く。しかし、抱卵に入ると鳴くことはない。もし人が巣に近づくと“jigu, jigu”と警戒音を発する。

カワリサンコウチョウは産卵初期には警戒心が強く、僅かな出来事で、巣を放棄し、別の場所に新しい巣を造り始める。かつてわれわれが調査をしていた巣は、第一卵を産んだ後、巣を放棄した。5日後に再び同じ地点で調査したところ、6mほど離れた場所で再び営巣し、すでに2個の卵が有ったことから、きわめて迅速な繁殖行動であることがわかる。

カワリサンコウチョウはテリトリー意識が強く侵入者に対し果敢に、追い出し、追跡行動をとる。われわれが観察した一例は、カワリサンコウチョウの一つがいが、すでにイワミセキレイが築いていた巣の下に、営巣を始め、彼らはイワミセキレイを追い出し、その巣をばらばらにして自分の巣材として利用した。追われたイワミセキレイは時々こっそりと戻ってくるが、すぐにカワリサンコウチョウに追い出されてしまった。

カワリサンコウチョウの雛の食性は、われわれの頸結紮法\*による観察では主に、小型セミ科の成虫、ツルギアブ科の成虫、シロチョウ科の幼虫などが給餌されており、これらはすべて林業に対する害虫である。このことはカワリサンコウチョウが林業にとって有益な鳥であることを示す。

カワリサンコウチョウは森のなかの美しい鳥で、羽色が鮮やかなこと、尾羽が優美なことから、観賞用として捕獲されることが多く、しかも、営巣場所が低山丘陵地で、なおかつ、灌木の低い

ところに営巣するので害敵の被害が多く、繁殖成功率が低い。近来その生息数が年々減少している。われわれが梨樹県二龍湖林場で標準的な4ヶ所14<sup>ha</sup>を選択し、調査を行なったところ、僅かに4対のカワリサンコウチョウを確認したのみであった。このうちただ1対のみが繁殖し、1羽の雛が孵化したが、地元の子供たちに持ち去られてしまった。このようにして生息数はますます減少している。

関係機関は真剣にカワリサンコウチョウのみならず鳥類の保護に取り組むことを建議する。

#### 訳注

- \* 頸結紮法 頸のねもとを紐でくり食べたものが胃へ送られないようにして食性を調査する方法。